



連合北海道青年委員会ニュース

No.2 2014. 12. 10 発行責任者:連合北海道青年委員会

青年労働者が主役の社会実現に向け、投票に行こう！

投票率 1%低下なら

「若者 1人13万円損」の試算

公益財団法人「明るい選挙推進協会」によると、衆院選での20代の投票率は1967年の66・69%をピークに低下傾向が続き、前回2012年は37・89%で、全体の59・32%を大きく下回った。

年齢別の投票率などについて研究する東北大の吉田浩教授（加齢経済学）は、20～49歳の投票率が1%低下すれば、若者世代が1人当たり年約13万5千円損をするという試算を出した。

過去の国政選挙での世代別投票率と、国内総生産、国債の新規発行額、社会保障などを分析すると、若者の投票率が下がるにつれ、若い世代の負担が増すといった結果が出たという。

吉田教授は「高齢者にばかり目を向ける政治家の意識を変え、若者が投票で声を上げることができない」と話す。

● 12/14の衆議院議員総選挙まであとわずか！

今回の選挙は国民の関心が薄く、さらなる投票率の低下が懸念されるという報道もあります。また、自民党が300議席を超えるという報道もあり、「一強他弱」に拍車がかかる恐れもあります。

この間の政治状況を見ても、衆・参ともに圧倒的な議席を誇る安倍政権は、多くの国民が反対する特定秘密保護法の強行採決や集団的自衛権行使容認の閣議決定など「戦争のできる国づくり」に向け、着々と進んでいます。また、労働者保護ルールの改悪により、私たち青年労働者が「安心して働き続けられる社会」ではなく、「企業利益を優先した社会」に押し進めようとしています。

これからの社会を担う私たちが声をあげ、自民党の暴走、国民不在の政治を終わらせましょう！！

● 投票しなければ若者が損をする？

若者の投票率が1%低下すると、若者世代が1人当たり年間約13万5千円損をするという試算が出ています。私たちが投票をすることで、政治家の意識を若者に向けましょう！

11月26日 日本経済新聞



SNSを使って広げよう！

今、ウェブ上では、特定の政党などを応援するのではなく、ただ「投票に行こう」と呼びかける『選挙ステッカー』が話題になっています。

これらのステッカーは著作権フリーで、誰でも自由に使用できます。『選挙ステッカー』を活用し、できるだけ多くの友人・知人などに投票へ行くよう呼びかけましょう！

『選挙ステッカー』で検索！

漫画家 江口 寿史さんの作品



漫画家 ひうら さとるさんの作品



漫画家 ヤマザキマリさんの作品